

# ひさめがわ 議会だより

No  
127

平成24年2月

さあ! はじめるよー!!

こどもセンター「小正月・だんごさし」

## 12月定例会

新年のごあいさつ .....	2
補正予算 .....	3
条例の一部改正・制定 .....	4
議案調査 .....	6
村の考えを問う(一般質問) ...	7~11
みなさまの声 .....	12

新年のごあいさつ

# ふるさと再生、村民皆様と一体となつて

村議会議長 前田 三郎

新年明けましておめでとうございます。

昨年「漢字の「絆」に象徴されるように、東日本大震災や会津地方の集中豪雨など大規模災害で家族や仲間の絆の大切さがあらためて知らされた年でありました。また、平穏な暮らしが再考された年でなかったでしょうか。

3・11大震災、原発事故の発生から、早くも11カ月を迎えようとしてお

りますが、低線量とはいえ放射線への不安や影響は避けられない状況にあります。

今年「農産物のモニタリング調査継続による安全確保、除染の計画作成、「仮置き場」の施設整備など本格始動の年になります。

村議会では、「原発事故の早急な収束と県内全ての原発廃炉を求める意見書」を昨夏可決し、①

原発事故の早期収束。放射能被害、風評被害への完全補償。②放射線量等のモニタリングの強化③

県内全ての原発廃止、再生可能エネルギーの政策転換を求め、国・県並びに東京電力(株)に要請しました。

また昨年12月、原子力損害賠償紛争審査会により自主避難等に対する賠償区域が23市町村に限定する指針が示されましたが、放射線の被害は県民

間貯蔵施設の確保、社会保障と税の一体改革など課題が目白押しです。また、抽速感の否めない※TPP交渉参加は日本の農業のみならず、国土保全、食糧自給率への悪影響は必至です。国民本位に立った政策議論を望むものであります。

地方分権を進めるため地域主権改革関連3法は、昨年の国会で可決・成立しました。今後、自治体の自主性・自立性がいかに高められるか、議会の果たす役割と責任も重くなります。引き続き議会活性化を図り、より村民に開かれた議論の場を目指していきます。

自立した村づくりのため、第3次振興計画の理念に基づき、「まめで達者な村づくり」を推進します。

新年度はバイオマスヴィレッジ構想の「堆肥センター」の運営など、村の課題に執行機関とともに取り組んでまいります。

ふるさと再生のために、大震災、原発事故からの「復興」「除染」元年と

して、村民皆様と一体となり、難題に立ち向かっていきたいと考えます。

今年も皆様にとりまして、良き一年でありますよう、ご祈念申し上げます。ふるさとといたしま

※TPP(環太平洋経済連携協定)とはアジア太平洋周辺の国が協定に参加して、農産物などの関税を原則撤廃し、自由貿易圏をつくる構想。



政府は、大震災の復興庁の立ち上げ、除染、中



館山公園山頂から眺望～広畑方面～



大樂勝弘 村長

除染物「仮置き場」造成・施設整備費を予算化  
**一般会計 補正予算6967万8千円を追加可決**

～予算総額を34億9860万2千円に～

大震災で被災の 西山体育館、図書館に復旧工事費

12月定例会は、12月16日から20日までの5日間の会期で開かれた。

今定例会では、平成23年度各会計補正予算、条例の一部改正及び条例制定、工事請負契約の変更などのほか、議員発議による条例改正、意見書提出の21案件が審議された。

提出された全ての議案を原案のとおり、全会一致で可決した。

また、一般質問では、5人の議員が登壇し、村政全般について質した。

**主な歳入補正**

- 地方交付税(普通交付税) 3899万8千円追加
- 国庫支出金
- ・公立文教施設災害復旧事業費(中学校費) 4680万8千円追加
- ・地震災害住宅助成事業 562万4千円追加
- 財政調整基金繰入金 8537万9千円減額
- 県支出金
- ・線量低減化活動支援事業 443万6千円追加

会計別		補正額	補正後の予算額
一般会計		6967万8千円増	34億9860万2千円
特別会計	国保	事業勘定	154万2千円減
		直診勘定	0
	簡易水道	274万6千円増	1億2474万7千円
	村営バス	90万円増	885万3千円
	介護保険	3万7千円増	4億1405万8千円
	交流施設	0	1629万2千円
	学校給食	208万8千円減	1億2913万8千円
	後期高齢者	38万4千円減	3417万2千円
合計		6934万7千円増	48億1138万9千円

補正が行われた8会計。国保会計(直診勘定)、交流施設会計の総額は変わらず内容が変更された。



復旧工事中の鮫川  
 体育館(左上)

完了した地盤補強  
 工事の「法枠工」(右)



- ・農地等施設災害復旧事業 367万7千円追加
- 村債
- ・文教施設災害復旧事業債 2540万円追加
- ・その他の公共施設・公用施設災害復旧事業債 1460万円追加

**主な歳出補正**

- 生活バス路線運行費補助金 427万6千円追加
- 村民保養施設「さざり荘」指定管理業務委託料 350万円減額
- 環境衛生費
- ・除染土砂等「仮置き場」造成工事、施設整備工事請負費 415万円追加

- ・放射能分析器購入 265万1千円追加
- ・放射線量低減化活動支援事業補助金(5団体) 210万円追加
- 商工業復興対策事業費補助金 210万円追加
- 災害復旧費 210万円追加
- ・農地等施設災害(台風15号災害)復旧工事請負費 470万円追加

- ・鮫川中学校災害復旧工事請負費(確定による) 4855万9千円減額
- ・西山体育館災害復旧工事請負費 2800万円追加
- ・図書館災害復旧工事請負費 5500万円追加

## 補正予算の質疑概要

**問** 村民保養施設「さざり荘」指定管理業務委託料の350万円減額補正は、「さざり荘」が好評で利用者が多く業務利益の増によるものと大変好ましいことであるが、これまで利用客で宿泊を希望された方はなかったか。

(前田 武久議員)

**答(村長)** 宿泊設備があったほうがいいなという人もいたようであるが、地元のことや旅館、「旅館・滝」の民間施設を利用するよう進めたい。

**問** 交流施設「ほつとはうす」は災害復旧を完了し、9月からの営業再開と認識している。今回、特別会計の備品購入費としてファンヒーター3台が計上されているが、「さざり荘」の利用客から宿泊希望

があればバス送迎で「ほつとはうす」などに呼び込むような努力も必要ではないか。

「ほつとはうす」の利用客数、ファンヒーターの設置する部屋、また、冬期間の閉鎖について尋ねる。

(前田 武久議員)

**答(村長)** 「ほつとはうす」の営業は、葉貫地域住民の心のよりどころ、また雇用の場として位置づけられる。クロスカントリーコースでの合宿等利用客が増える要因もある。

再開は8月10日からで、11月までの利用客が260人。食堂と客室の売上額は180万円。ファンヒーターは痛んだための購入で食堂に1台、客室に2台設置する。

宿泊希望者には、「ほつとはうす」利用を線上に

置くことで従業員に指導したい。通常営業で指導している。



村内唯一の旅館  
旅館つるや(上)  
旅館・滝(下)



再開した交流施設「ほつとはうす・さめがわ」

## 条例の一部改正、制定を可決

▼移動通信用鉄塔施設設置及び管理に関する条例等の一部改正

平成23年10月1日から大字渡瀬字青生野から大字青生野に字が変更されたことにより関係条例の改正が必要となり一部を改正する。

(※改正する6条例を省略)

▼職員給与に関する条例の一部改正

県人事委員会勧告に準じ、50歳台職員の給与を0.23%引き下げる。「病気のため退職した職員」の給料の支給規定を日割り計算とする。

▼職員給与に関する条例の一部改正

平成18年度の職員給与と改革に対する激変緩和措置。県人事委員会勧告の減給上限を1万円とする。

▼手数料条例の一部改正

放射性物質分析器による分析手数料を加える。

分析料・検体500円  
※平成24年3月31日までは免除

▼村民体育館設置条例の一部改正

旧西山小学校体育館を「西山村民体育館」とする。

▼牧野管理条例を廃止

現在、村が管理する牧野は存在しないため、条例を廃止する。

☆東野牧野(土地所有者に返還)

☆戸草牧野(土地所有者に返還)

☆鹿角平(土地所有者と利用者が直接契約)

▼東日本大震災復興基金条例

県が市町村の復興を支援するため、今後交付される交付金の受け皿

とする基金条例を整備する。併せて復興支援の寄付金等も本基金に積み立てる。

#### ▼暴力団排除条例

村民が安心して暮らせる地域社会を維持するため制定。全国的に制定がされる。



### その他

#### ▼過疎地域自立促進計画の変更

計画中、「館山公園整備運営事業」を「中心地賑わい創出景観形成事業」に、公営住宅整備(宿ノ入団地)の「木造2階建3棟6戸」を「木造2階建7棟14戸」に変更し、「定住促進住宅(西山)木造2階建10棟20戸」を追加する。

## 質疑概要

#### 問 過疎地域自立推進

計画の変更であるが、中心街の空洞化が進み、空き家が増える傾向に懸念がされる。中心地の賑わいを図っていくうえで、商工会、地域住民、村で審議会とか話し合いの場を設定し、具体的にどうしていくか、どう活性化していくか村長の所見を伺う。

(関根 政雄議員)

#### 答(村長)

中心街の広畑、新宿の賑わいは役所指導では、なかなかプランニングがうまくいかないと思う。

地域の皆さんのやる気・元気をどう引き出すか、まずは参加してもらうことからです。

プロジェクトチームを立ち上げ村民の皆さんの声も必要で、利用者を巻き込んで、時間をかけて計画を立てていきたい。

#### ▼工事請負契約の変更

○契約工事名

豊かな土づくりセンター第2期建築工事

○変更事項

契約額2678万1千300円を増額し契約額を1億3493万1千300円に変更する。

(主な内容)

丸太フェンス工419m、アスファルト舗装工事3618㎡、U字側溝敷設工406.2m、集水桝設置14基などの追加施行をする。

○契約の相手

藤田建設工業株式会社  
代表取締役社長 藤田光夫



工事が進む「豊かな土づくりセンター第2期建築工事」現場。左より乾燥調整施設(鉄骨パイプ)、中奥が製品保管庫棟、右端が副資材保管庫棟。(中手前と右から2つ目は1次・2次発酵棟)

▼白河地方広域市町村  
圏整備組合規約の変更

平成24年3月31日を以て解散する西白河地方衛生処理組合及び白河地方水道用水供給企業との統合に伴い、共同処理事務を白河地方広域市町村整備組合が承継するため規約の変更をする。

議員発議

▼議会議員の議員報酬、  
期末手当及び費用弁償に  
関する条例の一部改正

死亡を除き議員等が月の途中で職を辞した  
場合、月額報酬を日割り  
計算に改める。期末手当  
の支給については、禁固以  
上の刑により失職した  
議員に支給しない。また、  
起訴中など手当支給  
の一時差し止めの規定  
を加える。

▼自主避難等に対する  
賠償指針に関する意見  
書の提出(要旨)

文部科学省の原子力  
損害賠償紛争審査会に

よる賠償指針は県内23  
市町村の区域に限定さ  
れた。しかし放射性物質  
の被害は、県内全域にお  
よぶものであり、福島県  
民全てが風評被害、健康  
不安に陥っている。

このことから、賠償か  
ら外れた地域(県南地  
方、会津地方)は、対象区  
域と全く同じ感情であ  
り、線引きの理由は見当  
たらぬ。よって、23市  
町村に限定した賠償指  
針を撤回し、県内全域を  
賠償の対象とするよう  
強く要望する。また賠償  
額は実態に見合った額と  
なるよう求める。

■意見書は、内閣総理大  
臣、文部科学大臣、経済  
産業大臣に提出した。

また、原子力損害賠償  
紛争審査会長、原子力災  
害対策本部長、東日本大  
震災復興対策本部福島  
現地対策本部長に要請  
書を提出した。

議案調査

議会開会中に各常任委員会は、議案  
の内容について調査を行い、詳細につ  
いて各課長などから聞き取り検討調査  
した。

産業厚生常任委員会

- 調査内容
- 台風15号災害関連工事
  - 汚染土砂回収工事
  - 道路敷地内二木の葉回収業務
  - 放射能分析器
  - 線量低減化活動支援事業
  - 豊かな土づくりセンター第2期建  
築工事
  - 個別所得補償制度加入について他

総務文教常任委員会

- 調査内容
- 生活路線バス運行費
  - あおぞらバス経費
  - クロスカントリーコース除染業務
  - 鹿角平観光牧場内更衣室用建屋設  
置工事
  - 村民運動場バックネット補修工事
  - 鮫中災害復旧工事
  - 農業者トレーニングセンター災害  
復旧工事
  - 西山体育館災害復旧工事
  - 図書館災害復旧工事
  - 子ども手当
  - 県南子ども心のケア事業
  - 地域主権改革一括法支援業務な





関根 政雄 議員

**問 「雇用の場の確保」と「企業立地促進策」を示せ**

**答 雇用創出と新たな企業立地が可能なのか、検討していく**

質問

村民の雇用の場の確保、既存企業の支援、進出企業の支援は村の安定経済には必要不可欠な施策である。村内の既存の企業、進出企業に対し「企業立地促進条例」を制定し、税制上の優遇措置や助成制度を活用する等、村の産業振興の支援を図るべきと考えざるが所見を伺う。

答弁(村長)

企業進出の立地条件として土地の確保や工業用水、輸送条件、労働力をみても本村は厳しく、誘致が容易に進む環境ではない。企業立地についての優

再質問

遇税制は国税、地方税、村税の課税の減免制度があるが、既存企業に対しての減免措置は自主財源が少ない本村の場合は難しい。

再質問

村内の企業で増設、増築という設備投資をする企業があるのかどうか把握しているか。

答弁(村長)

鮫川機器は昨年に拡充している。中井住宅木販は現工場の倍の規模にしたと相談を受けた。地権者に協力を得られるよう指導している。

再質問

近隣町村には企業立地への各助成制度があり、本村の企業が移転してしまふ事も考えられる。本村に見合った条例の検討や企業の調査も必要なのではないか。

答弁(村長)

現企業には職員が出向いて要望を聞いている。本村の工場誘致は土地の価格では他町村とは違った対応ができる。進出企業の情報があれば引き合い願いたい。

**問 放射性汚染物の仮置き場と堆肥センターの稼働計画は**

**答 仮置き場は旧東野牧野の国有地で計画中。堆肥センターは7月に稼働予定**

質問

放射性物質の拡散で家畜の堆肥、木の葉の数値が堆肥センターの稼働を阻むものと懸念するが運営計画は。また除染目的で集荷した木の葉などの汚染物の仮置き場の選定と経過、予定地は。

答弁(村長)

堆肥の原料となる「しいたけ廃菌床」や「落ち葉・木くず」は放射性物質の分析

を行い適切に処理する。落ち葉は22年度に収集した20トンを利用する。

仮置き場は国有地を選定し、林野当局と協議中であり地域の住民や下流の古殿町にも理解と協力を願う。

再質問

新年度の堆肥の計画生産量は。また東京農大との連携で除染、線量軽減をどう計画されるのか。



仮置き場予定地の住民説明会

答弁(村長)

堆肥は計画どおり1250トンの生産を見込む。農大には連作障害や新農産物の開発、6次産業化の手伝いをしていただく。また消費者とのパイプ役として窓口になっていただく。

再質問

仮置き場近隣の住民への説明の手順は。

答弁(村長)

仮置き場には50坪のハウスを3棟建て、その中に木の葉や汚染土壌を保管し付近の住民には迷惑を掛けないようにする。予定地の1キロメートルぐらいの住民には説明をする。

蛭田 武彦 議員



**問** 図書館の災害復旧工事の計画内容は

**答** 既存建物の3階を取り壊し、早期に改修工事に着手する



大規模改修が計画されている被災した図書館

**質問**

9月定例議会において教育長は「平成25年度当初に開館を見込んでいる」と答弁され、村民より貴重な意見が多数あった。

これらの村民の声を反映させるために、耐震補強工事の内容と積算、さらに現在の建物に補助金などの絡みはないのか伺う。

**答弁(教育長)**

図書館の改修計画では3階部分を取り壊しを考慮作業を進めている。

**再質問**

概算工事費は、解体工事費700万円、既存施設の梁補強工事1300万円、玄関部分補修工事3500万円で合計5500万円の工事費の予定。現在、国県と協議し補助要望をしているところであり、1月中旬に災害査定が予定されている。

**再質問**

改修計画を教育関係者と話し合いをされたのか。また教育関係者はどのような考えを持っているのか。

**答弁(教育長)**

教育委員会では広く関係者から意見を聞いている。早く村民に利用していただく事と財政事情を考え、改修内容を検討した。

**再質問**

3階を取り壊すとすると仕上りの工事額はいくらになるのか不安であるが。

**答弁(村長)**

5500万円で工事が終了するように指導する。

**再質問**

利便性、将来性を考えた場合に現在の場所はどうなのか。

**答弁(村長)**

村の財政を考え、現在の建物を上手に利用する考えだ。今後は皆さんの意見も大事にして、新しい図書館という構想もいわずれ必要ではないかと考える。

**問** 鹿角平クロスカントリーコースの運営を示せ

**答** 鹿角平観光センターに管理を委託する方法で協議する

**質問**

クロカン・コースの24年度の春からの開所が村全体の活力となるよう期待する。今後の運営とPRについて伺う。

**答弁(村長)**

全国駅伝に出場する学法石川高校や安積二中の女子チームが既に練習に来ている。県陸上連盟の役員の方からも「最適のコース」と高い評価をいただいた。

クロカン・コースの整備を機会に観光センターを冬期間営業し、青生野地区の小売店利用の支援もする計画である。今後高校・大学の合宿誘致も行き、運営については鹿角平観光センター、商工会と協議の場を設けて相談したい。

**答弁(村長)**

5年後ぐらいには400台トラックができればと思っている。今後、皆さんと協議したい。

**再質問**

道路に沿った200メートル程度の練習コースと国有林利用の林間コースの整備を提案する。

**答弁(村長)**

国有地の借用は許可が出るまで2、3年かかる。今後利用頻度を見ながら早めの林間コースの設定も検討したい。

**再質問**

クロカン・コースには練習用トラックが必要と聞くと整備の考えはあるか。



練習に汗を流す学生



宗田 雅之 議員

問

定住人口の確保は重要課題であるが、その対策を示せ

答

「人が集まる村づくり」「美しい村づくり」の観点から解決策を見いだす

質問

地域の活性化、村の活性化のためにも定住人口の確保は最重要課題であり、一日も早い対策が必要と考える。次の各点について伺う。

① 地場産業の育成策

村民を多く雇用している地場産業建設、商業などの育成策は緊急の課題と考えるが。

② 6次産業化について

高齢者による豆作りを実施しているが現在過剰生産ぎみと聞く。今以上に味噌などの生産



空き家対策が急務とされる村中心街

体制を確立し、6次産業化を推進し産業の衰退の歯止めと雇用の場を確保すべきではないか。

③ 村営住宅による定住化と空洞化対策

村の中心地の空き家を買い上げ村営住宅を作り、若者に住んでいただく。これにより交流の場、防犯、伝統継承、人道教育につながると思うが。

答弁(村長)

① 商工業の支援策として各補助金合計681万

円。つまいもの祭りに170万円。プレミアム商品券に210万円の補助金を提案した。また融資資金面では村が利子補給する経営合理化資金、国県の震災災害の補助制度や資金繰りの支援制度があるの

② 味噌の生産は22年産大豆で22トで販売量は15トである。販路拡大のためにインターネット販売、都市部の物産展、イベントに積極的に参加し販路拡大に努めている。

③ 空き家を補助事業で建築、改修するには各条件があるので、財政的な面を考慮して検討したい。

再質問

① 地元の建設業でできる仕事は村内業者に発注するという入札制度の改革も必要ではないか。

② 抗酸化作用のある味噌には放射能対策に効果があり、ガン抑制になるとも言われている。これらを唱い販路拡大をすべきと考えるが。

③ 中心地空洞化の対策委員会をつくり推進策を協議すべきではないか。

答弁(村長)

① 安定的な仕事を供給できる体制づくりと仕事の標準化に努める。

② 味噌は放射能の体外除去に有効であり、健康な生活において必要な

食材である事を売り込み、販路拡大を担う。

③ 空き家対策、商店街の振興と定住人口の確保は必要な施策であり、継続して取り組む。

問 子どもたちの放射線対策は

正しい情報公開と放射線防護の指導を徹底する。

質問

子どもたちの放射線のリスク解除のためにどのような指導をするのか。

答弁(教育長)

教育施設、校舎外壁、雨どいや側溝の除染、木の葉の除去。学校給食の食材選び、生活習慣の励行、副読本の活用を通じて指導する。

問 風評被害対策を問う

農作物の分析結果の傾向を公表していく。

質問

風評被害対策としての汚染マップとリスクマップ作成が大事であり、農作物の出荷前に放射線検査を行い、その数値をネットで実況し、リアルタイムで公表してはいかがか。

答弁(村長)

村は放射性分析器を導入したので「手・まめ館」で

販売する農作物については全て分析し、ホームページへアップしたところである。また村民からの依頼分析も実施しており、大字単位を基本として、分析結果の傾向を公表していく。汚染マップは村民に配つたが、土壌マップは3月に仕上がるので、作物の栽培に役に立ててもらいたい。

前田 武久 議員



問

平成24年度の重点施策を尋ねる

答

東日本大災害と原発事故放射能汚染からの復興計画を策定する



東京農大との連携により建設が進む研究棟(堆肥センター内)

質問  
平成24年度の村政全般の重点施策について伺う。

答弁(村長)

- 復興に向けての3つの柱は「災害に強い地域づくり」「地域における暮らしの再生」「地域経済活動の再生」計画である。
- ①「きれいな村づくり」
- ②「豊かな土づくりセンター」の運営
- ③「ヘリポートの建設」
- ④「村道遠ヶ竜戸草線」の全線改良、「葉貫・唐露線」の着手、「茅地区の簡易水道」の整備、「公営住宅整備」等
- ⑤「東京農大との連携」「戸別所得補償制度」「中山間地域直接支払制度」の継続、「手・まめ・館運営」の支援
- ⑥「鹿角平クロスカントリーコース」の活用
- ⑦「さざり荘」と商店街が連携した活性化
- ⑧「特定検診と事後指導体制」の強化
- ⑨「自然再生エネルギー」の導入。以上具体的に3月定例議会に諮りたい。

再質問  
新年度予算で内示されている交付金はあるか。また次年度の予算規模は。

答弁(村長)

内示はまだされていない。新年度の予算は27億程度となる予定。

再質問

村民の健康を守る施策の考えは

答弁(村長)

埴厚生病院の力を借り健康被害の学習会の開催など健康維持に務める。

再質問

堆肥センターの雇用と運営は

答弁(村長)

3人の雇用、運営は「手・まめ・館」に管理委託したい。

再質問

公営住宅(広畑)は7戸建設予定だが、既存の住宅を撤去するの。

答弁(村長)

今年度3戸壊し、残り来年度壊す。7戸建設予定で13戸の世帯が入居できる見通しだ。

再質問

省エネ構想とひだまり荘裏の村有地の売却見込みは。

答弁(村長)

自然再生エネルギーへの補助金は国県は1割、村はその2分の1と考えている。村有地の分譲地は震災で亀裂が生じた。売却済みの宅地については代替地を検討している。

再質問

水道事業は要望の強い優先順位を見つけて網羅すべきでないか

答弁(村長)

落合、茅、草牛、寅卯平に続き東野と考えている。

再質問

農家の重要な収入源となる、戸別所得補償の達成率は80%以上の目標を掲げているが、更なる推進策は。

答弁(村長)

職員にも指導し、100%達成したい。

問  
平成23年度事業の進捗状況は

答  
順調に推移している

問  
村民の健康保全と放射能への環境整備は

答  
線量計測定の結果報告や県の甲状腺検査、一般健康診査の年齢拡大などを踏まえて検討し、村民の健康を守る。

※再質問の掲載は制約されていますので、詳しくは会議録または村のホームページをご覧ください。議会事務局までお問い合わせください。



星 一彌 議員

## 問 原発事故に対して今後どう取り組むのか

## 答 汚染マップの作成、汚染分析を公開し 国の指針を精査し対策する

**答弁(村長)**  
①農地を中心とした「放

②放射線汚染の除染を含めた村の対応と地域への指導について次の各点について伺う。  
③村が委託し収集した木の葉は仮置きするのか。また家庭、地域での木の葉の処理方法は。  
④地震による道路の補修状況は。

**質問**  
放射線汚染の除染を含めた村の対応と地域への指導について次の各点について伺う。  
①村内の汚染マップ作成の計画はあるか。  
②放射性物質分析機器による、今までの検体数と内容は。



放射性物質分析器による測定状況

**再質問**  
放射性物質含有マップを3月に完成させる。  
②12月9日までの分析数は641件。村民からの検査時間は15分で20ベクレル、一手・まめ館の販売物は1時間で8ベクレル、学校給食用材料は8時間から24時間で、測定可能値を1ベクレルに近づけている。  
③老人クラブに委託した木の葉は「除染廃棄物の仮置き場」へ。家庭、地域での落ち葉は含有量により分類する必要がある。国の指針が決まるまで、宅地から離れた場所へ仮置き

願いたい。  
④8月発注の村道13箇所と林道の6箇所は10月上旬に完成。林道大戸中松倉線の法面掘削と舗装復旧は間もなく完成する。林道前沼八斗蔀線の法面掘削工事は再災害で中断。  
残る村道工事関係は13箇所、今月中に舗装6箇所を3月26日の完成工期で発注する。既発注の山口官代線の法面掘削は3月23日の完成予定だ。残りの舗装6箇所は来年度早期に発注する。

**再質問**  
空間線量と土壌汚染と一体化したマップはできるのか。

**答弁(村長)**  
空間線量と土壌汚染とは一致しないので別なマップとする。

**再質問**  
村道官沢西山線長坂地区と前塩倉地区の路盤補修の時期は。

**答弁(地域整備課長)**  
前塩倉地区は、今月発注の6箇所に含まれる。

## 問 さざり荘の高齢者団体利用について

## 答 一年間の利用者の動向を勘案し、検討する

**質問**  
さざり荘のオープン後、高齢者団体が利用しにくい状況である。月に1日か2日を高齢者団体が利用できる日時の設定にする考えはあるか。

**答弁(村長)**

さざり荘は4月にオープンし、11月までに1万9千人が利用している。村内の利用・常連の方の利用が増え、村内高齢者団体の利用ができない状況は承知している。今後、

利用料金、利用時間など村民の皆さんの意見を聞き検討したい。

**再質問**  
週に一回休みの日があるが、その日を高齢者団体のために利用できないか。

**答弁(村長)**

定休日はお風呂の清掃の日であるが、職員の利用時間や休日について職員と相談し、高齢者の要望に応えるように検討したい。



村内外の入館者で賑わう保養施設「さざり荘」

## ふるさとへの想い 鮫川シリーズ③

ふるさとを離れ、都会の荒波にもまれながらも、自分の道を探し続けてきた。田舎なまりもなかなか抜けきれず…と思いきやいつの間にか子ども達も成長。電話の向こうの鮫川弁の懐かしさに、ふと時の流れに昔を思い出す。ふるさと鮫川を離れながらも元気に活躍されている、村出身の皆様へ寄稿していただきました。

### ふるさとへの想い

昨年の3月11日の東日本大地震から1年が経とうとしています。鮫川村の皆様には心よりお見舞いを申し上げると共に、一日も早い復興を願っております。

この災害には微力でありましたが、職場より福島県に消防緊急援助隊として6月の解散まで人命救助に隊員を派遣いたしました。悲惨な状況については報道はもとより隊員にも聞かされました。また田舎に帰った時に災害を目の当たりにして残念でなりませんでした。



愛犬と自宅にて

**山田 昭一**さん (旧姓 水野)  
(埼玉県北本市在住)  
鮫川村大字西山字追木出身

#### 【プロフィール】

昭和30年 西山・追木に生まれる  
昭和48年 学法石川高校卒業  
昭和49年 千葉県習志野市消防本部勤務  
昭和52年 埼玉県大宮市消防本部勤務  
(現さいたま市消防局)  
現在に至る

【趣味】 ゴルフ  
【家族】 妻と子ども2人

さて、私の故郷は西山の追木で小学校時代に連合運動会に西山小を出発し、落合地区を通り、徒歩で壇の岡(現鮫川中グランド)まで行った思い出、学校対抗ソフトボール大会、中学校時代には村内一周駅伝大会参加など振り返ると当時の良き思い出となっています。

村を離れてから38年が過ぎ、最近ではホームページで村民の皆様活躍を拝見しております。全国に産業、文化、スポーツで鮫川村の名が発信され、最近では学校給食甲子園、学生ゴルフ全国大会出場など、ネットで知り活躍を楽しみに応援してい

ます。

村民の皆様努力により、農業を主とした地域づくりに活躍されているのが手に取るように伝わってきます。また子どもたちの卒業文集には将来の夢について、そろって親の後ろ姿を見てもつと大きくなる事を描いていると思います。将来の夢をかなえさせるためにも、一人ひとりの「絆」を膨らませてください。

鮫川は阿武隈山系のすばらしい環境に恵まれた村です。村民の皆様活躍を期待しております。

## 原発補償

### 県南総決起大会開催

東京電力福島第一原発事故の自主避難地域で補償対象外となった、県南地域の9市町村の首長・全議員が補償対象を求めて、総決起大会が東文化センターにおいて開催されました。

席上各市町村長、議長より「県内の原発の被害は全県同じ、区域分けするのは言語道断、断じて許し難い」と抗議が相次ぎました。さらに今後「適切な賠償の実現に向けて、国県、東京電力へ強く抗議要望していく」ことを全会一致で決議し、完全賠償実現を誓いました。

## 次回の定例議会は

### 三月上旬に開会

あなたの声は村政に  
反映されていますか？

定例議会は一年に四回開催されますが、三月定例議会は新年度の各事業の提案、予算案が提出され、その議案を調査、審議する重要な議会です。また通告された一般質問も初日に予定されていますので是非とも議会傍聴をし、村政に感心を高めてください。

## 編集後記

明けましておめでとうございませう。昨年は東日本大震災に伴う放射線汚染により、毎日が心の晴れない日が続いたのではないのでしょうか。

今年は復旧、復興、そして未来への創造のために徹底した除染と情報の交換開示により村再生の道筋をたてる年かと考えます。これからも議会だよりを通して村民の代弁者としての議員一人ひとりの有様、思いを伝えていければと思います。

今年こそ皆様にとって最良の年になりますように。

(編集委員 宗田雅之)



原子力損害賠償を求めた総決起大会(12月19日)